

風景づくりを進めるヒント

せたがやの風景づくり・まちづくりに携わる、おふたりにお話を伺いました。



イラスト：八木健一氏

八木造景研究室主宰 八木 健一さん せたがや風景デザイナー(※)

◇ 誰でも美しいと感じる風景を求めて

「風景づくり」というのは「眺めを創り出すこと」という意味になりますが、その裏には「美しい」という言葉が秘められています。誰もわざわざ醜い眺めを創りたいとは思わないだろうという前提で、あえて「美しい眺め」と表現していないだけです。しかし、この「美しい」ということが人それぞれの主観にかなり左右されるので、よく問題が起きます。私たち風景デザイナーの立場としては、できるだけ「普遍的な美」つまり、誰もが美しいと感じるものを希求する役目が科せられていると思っています。

◇ 醜いモノ・汚いモノから目を背けず、排除する心を育てよう

「魅力」というのは「美しさ」と同義語で、誰もが美しいと感じる風景に共通するキーワードは「調和」です。歴史的な都市や集落が魅力的なのは、そこに、ある種の調和（バランス）が存在しているからです。従って、魅力ある風景づくりの基本は、風景のバランスを乱すモノを造らないことと、醜いモノを消し去ることです。私はこれを「消去法の美学」と言っています。日頃から、醜いモノや汚いモノから目を背けず、それらを排除する心を育てましょう。それが、ひいては魅力的な風景を守り育てる風潮につながっていきます。

※ 届出の事前協議において事業者等への助言・提案などを行う、風景づくり条例に位置づけられた専門家です。

財 世田谷トラストまちづくり 浅海 義治さん

◇ これからの活動に求められるのは、社会を動かす「企画力」

世田谷の風景づくりの特色は、住民活動が加わることで、それぞれの“場所の物語”を豊かにしていることです。しかしながら、今ある風景を残していくことは容易ではありません。土地の所有権や相続税の問題、宅地開発の波、近隣住民の相容れない要望など、都市固有の難しさがそこにあるからです。まず必要なのは、守りたい風景への“共感のネットワーク”を広げることですが、その先に求められるのは、現場から見える課題を世の中に発信し、都市に必要な「仕組みや制度」を生み出すことです。市民が市民を巻き込んで社会を動かす“企画力”が、これから一層求められています。

◇ 風景は、社会の価値観を映し出す鏡

現代アメリカ風景論の第一人者である J.B.Jackson は、「まちは、それを構成する社会以上に美しくならない」という名言を残しています。つまり風景は、私たちの暮らし方や社会の価値観を映し出す“鏡”だということです。理想と考える都市と自然のよりよい関係、自分達が身を置きたいと思うコミュニティの有り様、歴史的なものに対する評価、利便性や美しさに求める尺度など、何にどれだけの価値を置くのかという我々の意識が、まちの風景を形づくる上で大きな影響を与えています。だからこそ風景づくりは、同時代の多くの人々と共に考えるべき意味あるテーマだと思います。



多世代が参加する コミュニティづくりの ヒント

用賀では、若い世代も商店街を舞台に楽しく賑わいづくりに参加し、多世代のつながりを生み出しているという情報をキャッチしました。いったいどんな活動なのか？ コミュニティづくり、さらには地域の活動に若者の参加を得ていくヒントを探しに、用賀商店街振興組合に取材に行ってきました。

若い世代の関心とまちのニーズが掛け合わせり、楽しいコミュニティづくりを実現

用賀商店街と真福寺の参道が交わる場所に、「ハロー*ようが」というお休み処があります。通りがかりの人がお茶を飲んだり、学校帰りの小学生が立ち寄って宿題を教してもらったりしています。平日はお年寄りが一休みをしているところへ、赤ちゃん連れのお母さんが来て子育ての話で盛り上がったり、休日は子ども連れのお父さんの姿も見られたり…と、いろいろな世代の人が気軽に訪れる、地域のコミュニケーションの場になっているそうです。



お休み処「ハロー*ようが」



用賀商店街では、このお休み処をはじめ、フリーペーパー、インターネットラジオ、歴史がテーマのまち歩きやマップづくり、ヨガ教室など、若い人の感性が触媒となって、多世代の方が参加できる多様な活動が展開しています。

さまざまな関心をもった若者も参加して、商店街やまちのニーズを見出すことで、地域に共感が得られる活動が生まれ、新たなコミュニティが育まれています。

用賀商店街振興組合の杉本さんと用賀まちづくり株式会社の平井さん

例えば、こんな活動で地域でのつながりが広がっています

歴史好きな若者 × 地域の古老 ⇒ 地域の“語り部”を育む

お休み処「ハロー*ようが」は、壁には地域の古い写真、机一面には古地図が貼られています。古地図は、クチコミマップとして、誰もがまちの記憶を書き込めるようになっています。古地図を囲めば昔話に花が咲き、地域の人同士がまちについて語り合うしかけのひとつとなっています。

さらには、古老から若者が地域の歴史を学び、若者自身が“語り部”として、まち歩きを行ったり、マップをまとめる「大山道場」という活動を行っています。

これらの活動の仕掛人である用賀まちづくり株式会社の平井さんは、世田谷の地名の本を自費出版するほどの歴史好き。歴史をテーマに、日頃は地域への参加が得られにくい働き盛りの男性のニーズを掘り起こしています。



昔の写真(上)と書き込みのある古地図(下)

大学生×店主 ⇒ 商店街の顔が見える魅力満載の情報発信

用賀商店街のフリーペーパー「YOGA-R（用があーる）」は、駒沢大学経済学部のゼミの協力を受けて、編集を行っています。大学生が商店街のお店に体験取材を行った記事をはじめ、「商店街の笑顔コーナー」や「店主からの一言」など商店街の人々の顔が見え、声が聞こえてくるような取材で、一步踏み込んだまちの魅力やまちへの思いを伝えています。インターネットラジオでも、週1回イベントとして、用賀の魅力を発信中です。



フリーペーパー YOGA-R

用賀の子どもたちや若者 × 「よっきー」 ⇒ 用賀の新たなふるさとの風景をつくる

お休み処の中でも、ひときわ目立っているのは、大きなピンク色のおさるさん「よっきー」。子どもからお年寄りまで、立ち止まってよっきーにあいさつをしていく、まちの人気者です。

用賀商店街振興組合の杉本さんは、「世田谷は住民の流出入が多い区。用賀もそうです。山も川もないまちだけど、用賀のまちに住んでいる子どもたちには、お祭りの時に黄色いハッピーを着たまちの人とよっきーがいる商店街を“ふるさとの風景”として感じて育ってほしいんです。」とのこと。ハッピーを着てよっきーと練り歩くのは、高校生をはじめとした地域の若者。子どもたちは、いつか自分もハッピーを着て、「よっきー」とまちを練り歩くことを思い描き、育っていくのかもしれない。



用賀商店街のキャラクター「よっきー」とハッピーの若者

「みんなが知り合えるまち」に変えていきたい！そして“地域観光”を楽しめるまちへ

用賀商店街で、このように若者が積極的に関わっているのは、どうしてなのでしょう？用賀商店街振興組合理事長の小林さんに伺ってみました。

「生鮮食品や物販店の減少、銀行の撤退…商店街としての停滞が顕著になってきた頃、組合としても危機感を感じ、夜遅くまで話し合いを重ねる日々が続きました。そして、“商店街”という既成の概念にとらわれず、“人情のあふれるまち”を地域全体で築いていくことが必要なのでは？と考えるようになりました。住んでいる人みんなが知り合いのまち、さらにはまちの資源を発信し、地域を、そして商店街の中を歩き回りたいくなるまちへ…という思いから、用賀まちづくり株式会社を立ち上げるとともに、若い人にも商店街の運営に積極的に参加してもらうようになりました。」ということでした。

用賀商店街振興組合
小林理事長

こんな地域の思いと受け皿があって、若い人たちが関わるきっかけを見いだしているんですね。

取材を終えて ～出合いを育てて子どもたちのふるさとへ～

人の絆、地域の絆と言われている昨今。用賀の取組みを取材して、改めてよい出会いは大切だと感じました。よい出合いを大切にして、地道な努力で地域コミュニティの絆にまで大きく育てたいものです。

今なら残せる風景、つくることができる風景があること、そして、若い歴史好きの平井さんのお話を聞いて、なくなった風景を人々の心によみがえらせる方法があることを教えられました。土地やそこで営まれた生活の歴史を通じて川や田んぼ、助け合う村の習慣や人情は、形を変えても心の中に残しておきたいものです。また、子どもたちとのふれあいも楽しく温かいもので、きっと「用賀のまちが、我がふるさとだ」と胸を張っている子どもたちが育つでしょう。

風景づくり活動 ことはじめ

大切な風景に気づいて、なにかアクションを起こしたい！でも何からはじめればいいのか？
そんなあなたに、地域風景資産をきっかけに風景づくり活動をはじめた先輩がアドバイス。
活動をはじめるときのポイントをお伝えします。

地域で活動をはじめるときの秘訣って？



地域の組織や所有者との関係づくりを大切に！

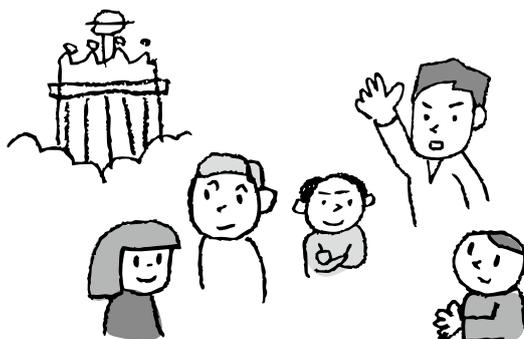
● 駒沢給水塔風景資産保存会 推薦人の場合 …双子の給水塔の聳え立つ風景（I-2）で活動

地域のリーダーを見つけ活動をスタート

私は給水塔の隣に住んでおり、かねてから給水塔には「近所にある奇妙な建物」という印象を持っていました。

平成13年に区報で地域風景資産の募集を知り、給水塔を推薦したら面白いのではないかと、思い推薦しました。選定の条件に「コミュニティづくりにつながる可能性

があること」とあったので、長く地域にお住まいの方に話をもちかけたところ、近所の方に声を掛けて回ってくれ、約20名の方が私の家に集まりました。給水塔にまつわる思い出や印象、将来の夢を楽しく語り合ったのが最初です。この時呼びかけてくださった方が会長に、集まったメンバーが発起人となり、保存会はスタートしました。



じっくり時間をかけて 所有者や地域と関係づくり

保存会の活動を進める中で、ひとつひとつの機会を大切に、所有者である水道局、地域の小学校や町会などとの連携を広げ、風景づくりを進めています。

例えば、ちょうど活動を始めた頃、給水塔の修理が行われると知った保存会は、給水塔塔屋の装飾電灯の一部の修理をお願いしました。水道局はこれを了承。平成15年、60余年ぶりに装飾電灯の点灯が実現しました。

最近では、小学生を対象にしたPRに力を入れています。小学校から給水所の見学会に来てもらったり、小学校の朝礼やお祭りに参加したり…と、未来を担う子どもたちに給水所の魅力を伝えています。

地域に協力者を見つけると、スムーズに進むんですね。
そして、じっくり時間をかけて、
所有者や地域との関係を育んでいきたいなあ。



なにをきっかけにはじめればよいのかな？



大切に思う風景を見つけよう

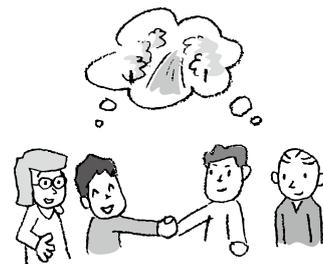
● 仙川・緑と水の会 推薦人の場合

…仙川・川面に映る桜並木道（打越橋～石井戸橋）（Ⅱ-27）で活動

失ったことで気づくこともある風景づくりの大切さ

かつて、身近な風景であった屋敷林が取り払われてしまったことがありました。「いいと思っている風景も、なくなってしまうのか…」と身をもって感じました。このときの思いをきっかけに、「仙川・川面に映る桜並木道」を地域風景資産に推薦しました。私同様、屋敷林がなくなることを惜しんでいた人たちに呼びかけ、地域風景資産の選定に向けての取組みをスタートしました。

ちょうどその頃、仙川沿いの遊歩道の工事が行われることになりました。地域の有志で勉強会を開催し、区とやり取りを重ねた結果、遊歩道に花水木が植えられることに。その時の勉強会に参加していた人たちも加わって、「仙川・緑と水の会」を結成し、今も「仙川・川面に映る桜並木道」を中心に活動を続けています。



最初のきっかけや気付きは、さまざまなんですけどね。地域の力を活かしていきたいね！

仲間をつくるには、どうすればいいの？



まずは 風景への思いを伝えてみては？

● 新町パークフレンド 推薦人の場合 …松林と大櫓のある世田谷新町公園（Ⅰ-9）で活動

地域風景資産の推薦がきっかけで、顔見知りの方に声をかけ仲間ができました

駅近くにありながら豊かな緑があり、子どもからお年寄りまでの憩いの場になっている新町公園。子どもたちの思い出に残るよう、みんなで大切にしていきたいと思い、できることから、ひとりでごみ拾いをはじめました。

そんなとき、地域風景資産の募集を知り、推薦してみたところ、仲間をつくらなければいけないということ。公園で見かける顔見知りの方などに、私の公園・風景に対する思いを伝えてみました。その中に共感してくださる人がいて、グループの立ち上げに至りました。

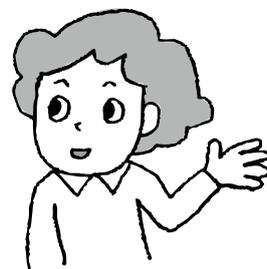


風景への思いを投げかけることが大切。推薦で、より声掛けやすくなりそう！

まずは、風景への思いや考えを伝えるところから、一步一步、仲間づくりをはじめてみましょう。そして、活動を始める際には、長期的に地域の方や所有者との関係づくりが大切になります。

地域風景資産の推薦から選定に向けて行う取組みは、みなさんが地域で風景づくり活動をはじめるとサポートにもなります。

次のページで紹介する「風景づくりプラン」も、活動をはじめるときにヒントを与えてくれるはずです！





活動をはじめるときのお助けアイテム!

「風景づくりプラン」

地域風景資産の推薦者は、選定過程において、自分が推薦した資産の状況や風景づくりのアイデアを「風景づくりプラン」としてまとめることになります。

これから風景づくり活動をはじめようと思っている人にとっては、風景や活動のあり方を考えるヒントがたくさん!

活動をすでに行っている人には、これまでの取り組みを振り返り、これから取り組みたいことをまとめる上で役に立ちます。

①風景にすてきなネーミングを!

親しみがもてて、風景を想像させてくれるような地域風景資産の名称をつけます。

②活動を進める仲間をつくろう

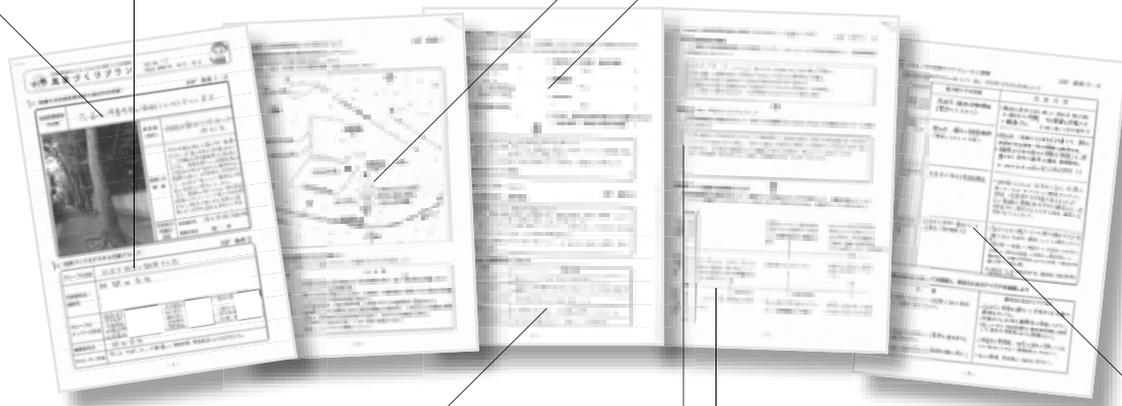
風景は地域みんなの資産。だから風景づくりをするためには共感する仲間とともに、地域の理解を一步一步得ていくことが大切です。

③さまざまな視点で風景を捉えよう

建物・みどり・暮らし・生き物…さまざまな視点で風景の特徴をまとめます。歴史を知ること欠かせません。

④風景にかかわる計画などを調べよう

風景に関係するまちの計画やルールは、風景の変化を予想する手がかりにもなります。



⑤地域の組織を把握しよう

地域の組織とその活動内容を調べます。地域の方にヒアリングできれば、つながりづくりにもなります。

⑦活動のアイデアを考えよう

将来像を実現するための風景づくりを進める活動アイデアを書き出します。

⑥風景の価値と将来像を表現してみよう

風景の価値と「こうなったらいいな」という将来のイメージを言葉や絵で表現します。

⑧活動の進め方を考えよう

今すぐできること、じっくり取り組むこと、だれかと協力して取り組むことなどを整理します。